



百人一首集のしるし



911.147
Ki
2

モエテオモコガル、ホドノコトヲサウトモ思ヒシウヨナ

四ノ目さし
四の目を猪白の下へつけてさねべし　えやハハといへるこ
とを伊吹山此名をうけてつぐり思ひ小もゆるといふ
をバサしもぐさふとを多り　伊吹山ハ下望園小あり

五二

藤原道信朝臣

祖父ハ九條右大臣原輔公父ハ恒述公あり公ハ信任寺光
公より道信朝臣ハ業を相傳小栗田実白是道公の孫子
とあれりといふ此朝臣此より大鏡にも出あり

明ぬれはく物とあきあきとけうと免しき朝臣けうけ
後於建集意初ニ小女此もとより雪此ふりけりけ日

ぬりてつのはしりる　えはされきせはるるうけりぬどと
くる小由どふと朝のあき雪此つぎ小今此あきべえり
をしづきれ雪此さハ右のきふいひてつぎにまわれし
情をいへり

○夜ガアケレバ日ガクレ　日ガクレバ又多コトハセトヨリ　知テヨリナガ

ラ昼ハワカレテ居テサヒシウクラヌユエニ日ガクレバ今宵モ又多テウ
レシイトヌコトハワスレテ又昼ニナルカイト思ヒテ夜ノアケルカヤツ
バリウラメシイコトデハアルコトカナ

あさばけをわの白の上ふりてさねべし

右大納言経母

五三

○百人一首峯後下

是程ハ此父ハ東三條校政爲事也是程ハ長徳二重仕右
大納言三重太納言長保三年正二位亮仁四重義母ハ正四位下
蒙承傳寧女公補任大亮等小あり又太亮小是程ハこの
とをいひて清母ハ極めあるもの上よりおかしけれバこの
ものよりひけるほどのこととあどこのことあつめて博覧日記と
名づけて云々とあり

是程まつねぬる程のあくる後ハいふふししきおとろしき
於て是程意部ハ小入道按察使等ハ後よりありける小門を
おそくありけれバあちこつひぬといひいれて作りけれ
バちみていづしけるとあり

○君ノ出ナサレヌヲナゲキク^{おげき}ヲリネマル夜ノアクル^{いろう}ハドレホドヒ

サシイおぢヤト思召マスゾイソレハク久シイ^{サシイ}るデ難キナコトヲ^{サシイ}ザ
リマスソレカウスマスレバ門ノアケヤウガオソウテ難キヲシタト傳セラル
ハナシデモナイコトデゴザリマス

儀同三司母

後同三司伊周公の父ハ中実白^{ミチシロ}也伊周公ハ正暦三年
十九策^{ミチシロ}して任權大納言同乙年越大納言任内大臣長徳二年
堅事左降大宰權帥同三年召歸京寛弘二年勅列大臣
下大納言上同五年准大臣給封千戶同七年薨自号儀同三
司^{タカシナノマヒトナリタシ}法記^{タカシナノマヒトナリタシ}ノ兄由母ハ代二位^{タカシナノマヒトナリタシ}等階^{タカシナノマヒトナリタシ}人^{タカシナノマヒトナリタシ}家^{タカシナノマヒトナリタシ}女^{タカシナノマヒトナリタシ}代三位^{タカシナノマヒトナリタシ}史子

也大鏡小くく見えしなり

玄れじのけす急はでハのれバをのずりの類ともお
秋右今集意初三小中冥白のひそ免ゆりぬけ有

○イツマデモワスレマイトヤクソクシタマヘド男ノ心ハカハリヤスイモノニテソノ
約束ノ通りニワスレマイトイフコトバが未マデハツキニクイモノナレバ
リスエマデ生テ居テウイメヲ見ヤウヨリハイツソ今ノ心ヲ後ノ世ノ
思ヒ出シグサニシテ前方カヤウノコトモ有ダガトソレヲナグサニスルガヨ
ケレバ大切ナ惜イ今ナレドイッソ今日ギリニ死デシマイタイコトカナ
いのちともこの世

大納言公任

祖父ハ情公父ハ廣孝公母ハ三束中勢ハ代明親王女なり情

五五

公ハ小僧也実相云廣孝公ハ親王云の溢ちり公任ハ寛弘
六年三月權大納言同九年正二位右安元年正月兼攝京使四
年十二月致仕長久二年正月薨称四條大納言ト云フ補任
法記小見しなり

源のおとハ絶て久しく成ぬれど名を流れて終まらんれ
拾遺集難知ト云大足る人々ありはうりなりはふ
ふる才源をみてとみゆりなりありてお白源のいと
ハとあり子哉集小もあやほりてふとびれせしれぬ
り詞事同じしぬまで云々今れととし

○源ノ多ノ音ガタエテ年久シウナツタレド此源ハ天子ノ血ツクリナ

和泉式部

サレタ結搦ナ游デアツタレバ トイふまゝに ソノ名ヲ ササミ イヒフウシテ今ニヤツハリ
 シレテアルワイ ササミ 游サヘカウデヤニツテ勿滞人ハ一代名ハ未代チヤヅ
 宗がれてといひますといふ皆游の縁起ナリ此游ハ嵯
 峨天皇のつくり給ひしナリ 大足ハ嵯峨ノあり嵯
 峨院乃場トありて後大足といへり

父ハ大に雅波母ハ百子内親王乳母越前守保勝女せといへ
 り一条院后彰子上东门院此女房和泉守橘道貞の妻ナ
 りといへり後於建集小和泉へ下り侍り々々候としん入り
 後小丹波守保昌小々して國小女みくるこゝ金葉集玉

紫式部

紫集ホ小尼由初め冷泉院の四皇子 ソツノ 御女 メデ の宮給へるほどの
 る式部相違大鏡など小尼といふ
 あゝざゝん此女はあと思ひで小い御女といふの違ふもの
 後拾遺集意部三小尼地保あゝび侍り々々候し人此も
 小つゝし々るとあり

○病弱が次第ニオモツテセウハ此きニイキナガウヘヤウトモ覺エマセズ
 進付死マステアラウガ死デサキデノ思ヒダシグサニ意シイアナタ
 ニモリ一途多タイコトカナ多ズニ死デハミガサツテ忠ヒノタネヂヤ

祖父ハ中納言兼輔父ハ権左衛門尉兼光母ハ左衛門尉兼光

東宣孝の事ありしを宣孝けやくおぼりて後一条院
后之上東院のへまれり紫式部といふと後とあれど
こふハもゝしつげ人原氏物語作者あり

免りありてみしやそれともわぬまふ雪ぐれかしと、月成
秋夜今集難於ふをやくりりるをむらふ侍りある人
のとしごへてけあひふぬがほのこふて七月十日ぼろ
月小きけひてぬり侍りたれバあり

○メグリ出逢テアレハ足ゑ入ギヤガソレデハナイカトトクト品ヒ見
定メヌウナニ足エヌハテウドヨナカ教はノ月ガ雲ニカクレタヤウナ若枝ヲ
シイコトデハアルコトカナ

大貳三位

父ハ家系宣孝母ハ紫式部大貳左衛門の事あり一條院
御乳母かれバ三位小叙せられしありん

在るゆゑあの手く家風ふたばい下そふ人をむすれやいす家
後終遠集と終部三小これぐあるをこのおほつとなく
ちぐいひつゝありた家ふとあるとあり

○君ハ松ニキツイブサタナコトヂヤト不足ヲ侍セラルガ君コソウトく
シウナサルレ上三ツイヤモウソレヨ君ヲウスレヤウカイウスレハイタシニ
セヌソニナドウヨクナコトヲ侍セラルナ一旦ニヨシタヤクソクヲウス
レハヤウナ私ガヤゴザリマセヌゾヘ

上三乃そとくいさんの序あり 多る山八有馬郡猪名
望ハ河邊郡ふてやも小津國あり

赤條忠

赤條氏ハ日本紀天武條小赤條^{ノトコタリ}忠といふ人^ニん^ニる^ニり^ニ流^ニ目
本紀^ニも此氏數多^クん^ニゆ^ニ父ハ大和^ニ當時用^ニ臣^ニの^ニ素^ニ器^ニ
周^ニの^ニ母^ニある^ニ事^ニ法^ニ祀^ニ小^ニん^ニ袋^ニ多^ニ子^ニに^ニ時^ニ用^ニ依^ニ右^ニ忠^ニ耐^ニ号^ニ
忠といへり

吾^ニま^ニい^ニで^ニね^ニ赤^ニ中^ニし^ニま^ニを^ニさ^ニる^ニま^ニて^ニう^ニづ^ニは^ニの^ニ目^ニを^ニん^ニし
後^ニ於^ニ集^ニ意^ニ於^ニ二^ニ小^ニ中^ニ冥^ニ白^ニ龍^ニ隆^ニ少^ニ將^ニ小^ニ侍^ニり^ニる^ニ時^ニは^ニ々^ニ々^ニ
あり^ニる^ニ人^ニ小^ニもの^ニい^ニひ^ニる^ニり^ニ侍^ニり^ニる^ニり^ニ多^ニ此^ニめ^ニて^ニさ^ニず^ニり^ニを

兄弟

聖^ニ朝^ニ
はつとめて女小のいりてらあるとあり

○七トヨリ傳リト知タナフ 見合テ居ズト勝^ニニ^ニネ^ニヤ^ニウ^ニデ^ニア^ニツ^ニタ^ニモ^ニノ^ニヲ^ニ
ヤス^ニモ^ニデ

キツウ夜ノフケルニデ内出ガアフト思フテ寐モセス待ツトテ月ヲ
ガメテ居テツミハ西ノ方ヘ入ニデナガメテ居タコトデハアルコトカナ

小式部内侍

父ハ和泉^ノ守^ノ橘^ノ通^ノ貞^ノ母ハ和泉式部也内侍ハ^{ナイシスケ}家^ニ侍^ニる^ニり^ニこの
内侍の^ニ名^ニを^ニ相^ニ談^ニ小^ニん^ニい^ニり^ニて^ニ小^ニ内^ニ侍^ニ小^ニ式^ニ部^ニと^ニあ^ニべ^ニす^ニ
を^ニ相^ニ談^ニに^ニあ^ニじ^ニる^ニ小^ニん^ニ望^ニゆる^ニや^ニる^ニ小^ニ國^ニ津^ニ大^ニ納^ニ言^ニ実^ニ方^ニ中^ニ將^ニ
か^ニど^ニある^ニ小^ニん^ニい^ニひ^ニて^ニう^ニける^ニある^ニべ^ニし

大江山貴望の是のと知れれば^ニい^ニふ^ニも^ニ又^ニ比^ニ天^ニの^ニを^ニし^ニと

金葉集雜初上に和泉式部保昌小をして丹波國小侍
々家より初は家合能者々家に小式部内侍をみにとら
れて侍りけるを中納言定頼局のうゝにほりてきて
はいのせさせ給ふ母後へ人つゝしんやつのひききで
こぼせいのふもとなくおぼすゝんかどふをふれて
あらけ家をひききとてあるとあり

○母ノ下ツテ居スル丹波國ハ大江山ト云大キナ山ヤ豊野ト云イク
ヲモヒロイ野ヲトホラネバ行レヌノ遠イ國ナレバカノ國ヘ下リ
マシテカラマダ書状^{フミ}ノトリヤリセイタシニセヌモノヲ

大江山豊野とも丹波國あり ^{フミ} 云ふをこの國の

名所の天のけしきをふそむぬにいひのけあり

伊勢大輔

祖父ハ系主大中以能宣部片父ハ系主輔親部片也筑前
守宇備兼武の妻系主の母終に集哀傷の初は乃伊
勢ハ系主の女家小いふ家也べし

いにしへの家ら能部此八重桜々ふ九重に、ほひぬぬの形
詞系集春初一は一條院時宗らの八重桜を人能部
け家そのをり清前に侍りなればそ家を歌にてふよ
めと侍りとありけれバとあり

○昔ノ奈良ノ都ノフルビタ八重桜ガ今日九重ノ今上ノ清前ニ

との小町が安小あゝとお京し。

六三

左京大夫道隆

父ハ伊国公也道隆ハ公ハ補任小長和乙年長三佐左中
將第参三年四月赴左京權大夫長元九年同友佐とあり
業系相諱ハ此方のところ小三佐中將とあり

今ハ多岐もハ純れんとづりを人にてあゞてふふもづり
及於進業系迄部三小伊勢の故を日づりちり此方にてたり
々々人^{三条院才一皇女}苗子内親とあり小志のびて通ひけるをお母やふも
望しめしてはもり女あどつけさせ給ひてあひあも
とハ此方ありふれバちとたりとあり

○イヒタイコトハタントアビド人かあヌヲシテ居ルホドノコトニ及ビタレバ

トント^{カガ}ガナイ^今モウハ思ヒ切リテミマハウト云々一言ナリト信

言デナニニテスグニヌタイコトデハアルコトカナ

六四

撞中納言定頼

父ハ公任也定頼ハ長元二年任撞中納言同十年長二佐
長久三年正三位同乙年改任明年正月最々公ハ補任諸記
みんしとあり

鈴ぼけう治の河旁多しぐ小然れもる漱ぐのあぢ
子裁集冬秋ふう治小はうりてたりとる時とめとあり

○宇治ハ山モ河モ景色ノヨイ所デイツデモ面白イ所ヂヤカ 夜明ガ

。百人一首峯嶺下

お探

夕八宇治川ノ夜ノ景カタエニ消テソノヨリ映ルニ立テアル
 アジロギガアソコヘモアハレテクルハ夜明ガタハ格別ニ面白イド
 ウセイヘ又景色ナヤ
 結句を何の句の上につけて置くべし
 宇治川ハ山城國ガ
 リ 細代木ハ水多キと云フ此相あり
 父ハ源頼光郎也或モ此小石大石ニ資事ニ資るお探
 依之号お探を名ニ付テ入道一宗女房ありしと云
 由後抄集頼朝公云云としてお探國小と云
 5しもんあり

前大傳正史

うみまびゆさぬ袖ぶおある相を云ふくらんぬる惜れ
 後抄集頼朝公云云内裏の合ふとあり
 ○ツレナイ人ヲ年久シウ恨ミアグニテ 恨ミノ後ニ袖ガ又レドホシ
 ニヌレテクナルガソノ袖ノクナルサヘツライニダソノ上ニ立ニクテハタ
 スガサキツウ惜ウコザルワイ

父ハ小一條院清子冬後基平也号小石院傳正保安元年
 補正曆也天治二年己月任大傳正初為熊野三山檢校山
 伏修驗道事保正元年乙卯二月己日入滅中右記れ日記ホ
 小石由此傳正此子統世孫相傳也云々

井さ小あり

徳とも小あはれと思へんおろろあちりほのふ志人もれし
今日紫葉難部上小大衆中て思ひうらぬ極のさきあや々
ぬを足てとえるとあり

○大衆ハキツイ源安テ冬ノ雨トハ熱新ノ極子モカハツテアルニ思ヒガ
ケナク四月ノ遅桜ガ一本咲テアルヲ足付々極ハ京ミテメナレテ格別
ニ思フモノナレバナヤウト近付ニ逢タヤウニ思フテキツウ公ヤスグナジミ
ノヤウニ思フホドニ 三ノウ 桜をヨ ジチ 思フモ 二ノウ トモニ我ヲ あそれと 你切ニムツマジク思フテ
クレ此山中ニハ を 汝ヨリ外ニ近付ハナイニ
三の句をぞ句の上ふつとてまほべし

六

周防内侍

父ハ周防も手続仲也此内侍後片泉院まつへなりし事
後片泉集小尼とあり

春此夜此憂バウリれぬま極小のひ奈くぬん息丁を惜めれ
み哉集難部上小ますさ 時分 るバウリ月れあう手相二條院
小て人々あはる居あうしておのづかりし傳りたる小内侍
周防よりふして極もが奈と思ひ地う小いふを嘆て大
洞言忠家これをばくふとてのひ奈をみすれしあやり
さしいれて傳りやれバるめ奈とあり

○春ノ夜ノミジカイ憂ノるホドナチヨツトノ極ヲシテ うひさく 何デモナイ
○百人一首峯樹下

コトデ立ラレヤ縁名が^サ惜シウゴザリヌワイ

のひ京くを肘ふいひのけゝるを多くみありけるを京々
れうへしふも 變りありて春にねぶのきと梅をいふ
うひ京くをふ京すべきとあり

六
三條院

大徳父ハ冷泉院大徳母ハ大政大臣兼ある三女贈皇太后起
子也清漳ハ居貞とナれる寛弘ハ後十月日佐長和之使
正月讓位寛仁四年四月依清惲出京九月九日崩清三條院と
而跡抄業京相記ふんしり

心ふも何ぞうねふ京くへふいしるべき程のつきう形

後於集難初上に迷いからばおしかりして佐あぐすん
と思しめしりゆゑう月れ何くりけるを清記してとあり

○老後ガヤケテ心ヲナヤメテ居ル上ニカヤウニ不例ニテ次オニオセツテ
ハテニニ居セ有マイト思ヘバ佐ヲサウウシ又ウキ世ニアキハテタレバ早ウ
死タイト思ヘドモシ 心ニ思フ通りニカナハズ思ヒノ外ニウキ世ニ生ナガラ
ヘテ居タナラバ今夜ノ明カナル月報が哀シウナルデアウウヤウ思
ハルコトカナ

業京相記ふ内此やきて京がのせ終ひ又係京くは此みお
しかりて心ふいと京やうしく思召るるを多くみありけるを京々
り 改記抄ふ此事内目も出説せられけりし大徳に

能國法師

兄して此法親王ハ其表めきて使るにのかしきといへり
父ハ肥前守橘元愷ヤス能國もと此名ハ永愷と法記に見え
り後拾遺集ハ此國をべといふところにてちめ家
がせどの指の裏に京家時ハいとの山ハ兄と改ありゆくと
あれバそこふすみしあり

嵐ぬくまの山ハ永愷ハ事あるの川北にしきありきり
後拾遺集秋訪下ニ永愷ハ内裏参合にせめしあり

○三室山ニノタノ永愷ヲ虎ガ吹チラシテ立田川ヘ流レテキテ此川ノ錦ト
ナルヤワイ

良暹法師

三三とをを吹かしてきこへし 三室山ハ永愷を川の上に
ありて立田川北邊あり後拾遺ハの山誤りいと多し右今
集津永愷父が前に永愷ハ永愷をるの秋あれバ改
つ川にぞぬさハくむく家と何ハ大和國のありて山
城國と津國のさうひにて今此京より深山嶺を過て
は國西をへ通る道ありうひ改あびにきをも大和國のと
思われしハ誤りあり

父祖ちるべ大系に伝へ家とし後拾遺集にんしりき能
因京と同じ時此人ありけんるも見ゆ

ナびしすにおをを立出てあづむれバいづこもおおし秋の冬れ
及於造集秋初上に懸ち了文と有り

○稻リツクリトニテ居レバサビニサニ外ノ所ハカウデハアルマイト思フ

テ 家者ヲ立出テナガムレバ秋ノ日暮ノサビシイハ何^ドも同ジコトナ

ヤハ

諸句をバ此句の上につけてさへるべし

大納言隆信

祖父ハ六條院右大臣重信公ハ權中納言是才ヲ理信ハ八咫
保元年正二位永保三冬持大納言寛治乙亥大納言ハ貞二月
大宰權少貳保三年正月覺於西府より公々補任にえり

タされバ門田此いかを音づれて声のほろを小何手^のせぞ婦く

金紫集秋初に仰賢鈴屋の梅津の山里に人々ほろりて田畠

此秋風といふことをち^のり

○日暮ガタニナレバ門前ノ田ノ稻紫ニソコノ音ヅレテソレカラサナドデ^{あしの}

五根ヲファイタアバラヤハ秋風ガ^{さぞ}吹テクルハ

祐子内親王家紀伊

内親王ハ及朱雀院皇女京師ヲ往世終相語にん^と紀伊ハ教

位平理才女紀伊も室理妹あるとしおにえり^り家とい

ふハそれ此歌につゝあをいかなり

音にそくる所の候のあづはうりじ也袖のぬれもてそすれ

金紫集未應部一に堀川院此法時ケサウフミアハセ書合に与めるとあり

○聖留ニキコエタ評判ノイアタク音又キクシイ人ニハワシハ思ヒヲカケウトハあけじや

思ハヌヨモシ思ヒヲカケタラホノトホラヌ相思ヒヲシテ恨ミノ後ニ袖ガ

キツウヌレセ丁セセウワイ

テ師侯ハ和泉國ナリ 青のさきをテ師侯といひ

けあじ浪うけじともに見ゆあり

六三
前中納言匡房

大江氏此の八上にいへり大江青人ナリナリチカナリヒラニサマサナリコトキナリミツマシミタカ

周生勘匠居とつゞり匡房ハ寛治八段中納言永長

ニ支兼大宰権帥康和四段権帥叙正二位長治三度再任

権帥ヲ永ニ度大藏々同十一月薨云々補任に足るあり

高砂のちのの梅子堀にたりとや後のあすもあらずもあらん

及於先集春部上にうち此お母いぬうちぎみ此家に今へ

多うてあすもたりけぬ小通に山の梅をまといふことを

とあるとあり

○ハルカ向フノ山ノ家ニ梅が咲テアルワイアノ向フノ山ノ家外山ノタリ

ニ庭ガタツナヨ 庭ガタテバアノ家ガ元エヌホドニ

うひ後京びに戸山津見てふ所の法名をひきて外山ハ山の

門のさかりといへれど師侯にハ戸山津見の戸ハ金紫集

此家に山此とあげとあるやも同じことにてあつとあり

○百人一首筆梯下

源俊賴朝臣

といへり是をもて思へば外山もいふ山あるべしこゝろの
山はしるゑみより遙ある山は家の標の足あるす處なり

父ハ大納言源信々せ俊賴朝臣ハ木下殿ハ左京大夫にて
四位上あり

このりれ人をもつての山おろしをがしつれとハ祈らぬをれを
子載集意於二檢中納言俊賴に意れすそれを
傳り々時祈ふ意といへるゝをとり

うりりたる

○ツレナイ人ヲイロくニイフテ意と慕フテモツレナイユ正神佛ニ祈

ツタナラソノ人ノ心カ辰くヤワラグコトモアラウカト思フテ泊瀬ノ親音

源基俊

をがしつといふを山おろしに源あり

キユエ又親音ナヤワイ

へ親ヲカケタトコロガイヨくツレサガツツテ中ミヤワラガヌコレハイカナル
コトゾ泊瀬ノ山オロシヨコノヤウニツヨレカシトハ親ヲカケハセマセノヲ
もがしつれ いのちぬものを

祖父ハ堀川右大臣親宗公父ハ正二位右大臣俊成公基俊ぬしハ
母正位下女御つ佐ありしを法抄に記し母ハ下堅とみ業の
女ありらんす源基俊源光俊ノ子なり

繁り密しさせもが家を令めて何れともしの杖もいぬ然り
手載集雜初上に傳朝光見具後公の傳を
基俊の息あり維摩公余の講師の語を

多びくもれにれれば前大政大臣法性寺に恨まやるを基後し
めぢが原お古を集後方の親書のあとで授けめしめぢが原のさししもさ
べなれば程り未だめといふ等あり衣の親音のお上下のちけあひは堅くするが
佛の多し妻傳の人を信ししとありたと云に下望せしめぢが原のさし
もぐさおのが思ひに力をやゑんといふ等ありれどちのそれとしも
あるをそをふて信りしあるをいしといふ等あり

○先きヲ維摩舎ノ講師ニナシクダサルヤウニ兼く信れミテ上テアレド及
くモレマスエ正信ミヲ中上ミタレバシメナガ系ト信セラレミタシメナガ系
ト信セラレミタハ程程メトイフ心ト存ジミテヒタスラ信れテ上テ
ちぎりおきし
信約未ヲ仕リミテソノハカナキサセモグサノ信云云ノ家ヲ今ト報ミ

テ待テ居ミタニアハレ今年ノ秋モスニダいぬめり振子デゴザリマス ヨモヤ
今年ハト存ジテ居ミタト呂常年セ外ノニ信セ付ウレタ振子デゴ
ザリマスガ何卒来年ハ先見へ信セツケラレテクダサリマスルヤウニ信ニ
信れテ上マスル

眞福も此維摩舎ハ十月十日より十六日迄であり講師ハ九
月に定めらるゝなりを講師此法を説ける俤ハ此中此等
講舎此講師にもせしは信にて俤の信をむくあり眞福も
ハ家系家のもにて此講師ハ家系の長老此すしせしめあり
うひはなびにいぬなりハぬめ此約め祢にて秋ハいなりと
いふそを述ていふ此みそいぬなりハゆきにたりあるをにけ

を給めて祢といへり此とてひゆけりをゆくめりといふくめ
此約めけなり志をるめりハるめ此為めれにて志をれり
かりきをそて此をすべ志をべしといへれど誤りなり
能りハ俗言ニ譯せばやうといふくなりあづるめりハあづ
ゆきやうす志をるめりハ志をるめりやうすゆくなりハゆく
やうすといふくなりといへぬ能りいになりとおなじ
とあづまいぬ能りといへぬといになりといふべきもの也

法性寺入道前冥白大政大臣

父ハ知是院冥白右室云母ハ六條右大臣政房云女也此入乃ハ法
性右室云此事なり法性院相傳ふ此おとく保安二良

冥白にありせ給ひて更たてておとしぬしき同は良正
月に遷改此帝位につくを給ひしく松政とヤキ帝おとく
にあきせ給ひて此二院位につくを給ひし時もち冥白にか
らせ給ひしバ代此帝の冥白にて二度松政とヤキむ
しもいと多きひあすに丁を傳りなれおほきおとく
にも二度あり給へり云百孫抄に應保二重六月於法性寺
出家長寛二重二月薨たり

り多の京に記出て見れば父良の重なるおとくあき
詞花集雜記松院院位おとしし時海上能重
いふことなるはせ給ひなれにちめるとなり

○海上ニ松ヲ漕出シテ遙ニ沖ノ方ヲミレバ 松ノ木 天ニ浪ガツイテ
何所ガハテカ取リカワカウヌ

松といふでございどと此みいふ事古歌に多し

七七

崇徳院

大徳父ハ多聞院大徳母ハ待賢門院禪子天皇法諱ハ教仁保
安四年正月受禪同二月即位永治元年十二月讓位保元元年
七月於仁和寺法出家同廿四日移靈寶岐國長寛二年八月於
所治承元多七月奉謚崇徳院ト法抄ハ云ふ
淑をそやみ哀みせしめ 源川此日れても末にあはんとぞ思ふ
切糸集慈幼トに教あり 次とあり

○淑ガ早サニ若ニセカル、源川ノ水ノ如ニ今コソハ人ニセキトメラレテは
ズニワカレテ居テモ 源川ノ水カ川下デハ又二所ニ合ト同ジヤウニ
未デハ是非ニサ 龜フト思フ

七八

源兼昌

父ハみ濃も俊輔也兼昌ぬしハ皆已位下皇后宮大進あり
しとし法抄に云ふなり

何をぢ時通ふ子多れかく髪に髪和祢ぢぬ次後れせきち
金榮集冬初に冥後れ子多といへるををあるとあり

○次廣ノ浦カラ源次時へ鳴イテイク子多ノ声ハキツウ物ガナシイ
モノチヤガ此子多ノ鳴声ニイク夜目ヲサマシタゾヌマノ冥もハ

左京大夫源備

祢がめぬハねがめぬらんあり 次ハハは國京り於所
とす後になしむひて海といくばぐもあまといふ

アキス五

父ハ正三位修理大夫源季つや源備ハ保也三妻三子
左京大夫七歳皇太后宮大夫久安四歳正三位久壽二歳三月
出家と法抄にんしあり

秋風小をさびく雲の流るりそれ出る月の影のすや々す
秋右今集秋の節のどに宗徳院に百首あまうる時とあり

○秋風が吹々ナヒカス雲ノタエタるヨリゾト出八月ノ秋ガ格別ニア

ガヤカナ

待賢門院堀川

門院清父ハ宗院大納言のまつや白河院の由貴子も源院
后宮康治元年二月出家久安元歳ハ月崩と百首抄流
世継相傳ふん由堀川ハ神祇伯源仲女京りしと流世
継相傳ふんしあり

京がらん心もちる更更髪れみづれて々すハものをてそ思ふ
子裁集意動三に百首れあなりたる時意のゆくをを
ゆとあり

○夜前急テ未ナカウトハイヒカハシタレドモ男ノ心ガ免未ナク未ナ
ガ、ウウ心ガシレネバ勢源髪がれレハヤウニ私ガ心ガれテ袖ヲ

○百人一首筆下

イヒカハニタ通りニ未ナガイコトガ名交ニシテアラバ此ヤウニ相成トヲシ
テ礼レハスマイ相ヲ

新あけれ更替をもてみづるに冠禪宗づゝ多とへ多
り宗づらんも此に縁語あり

二
後述大寺左大臣

祖父ハ述大寺左大臣実能公父ハ大炊清門右大臣ニ能公母ハ
納言信右女也後述大寺実定公ハ嘉永三亥正月内大臣
文治三亥左大臣十月右大臣乙亥七月左大臣建久二亥六月出
家と云々補任百餘抄ホム云々
本とテ次等つゝを宗づむれども有るは月ぞ新れぬ

子裁集集初に晩年時とていへぬ心をうへ作りたりあり

○今時ちが鳴タトテ鳴タ方ヲナガムレバ時香ノ鳴タアトカタセナニ

モナイやニ有明ノ月バツカリガ^ササッテアルワイツイドナヘヤ

トニデイタ

二
道因法師

祖父ハ對る寺教輔父ハ伯幼歷清孝也道因本此名ハ教輔授
乙位下右了知ありしらし大系圖右今著書集ホム云々
おをひるびすても今ハおぬ物をうす小をへぬハあづきんあり
子裁集意初歟とて文とあり

○ツレナイ人ヲ年月嘉仁慕ヒ^{コバ}以ヒアグニダニソレデセ^{サテモ}慈死セズ人ハ

コタエテ有相ヲツライ度ゴトニコタエラズゴボレル相ハ後デゴザルワイ

皇太后也太夫倭本

祖父ハ大納言右京大夫権中納言俊成^{うきなり}也俊成^{うきなり}ハ仁安二
 年正月三任承安二年二月皇太后也太夫^{うきなり}安元二年九月出家
 号釈阿元久^{うきなり}安元十一月晦日薨^{うきなり}ト云々補任^{うきなり}不^{うきなり}凡^{うきなり}此^{うきなり}
 此^{うきなり}子^{うきなり}疏^{うきなり}世^{うきなり}體^{うきなり}相^{うきなり}後^{うきなり}小^{うきなり}も凡^{うきなり}由^{うきなり}
 与^{うきなり}此^{うきなり}中^{うきなり}と^{うきなり}是^{うきなり}こ^{うきなり}を^{うきなり}承^{うきなり}け^{うきなり}れ^{うきなり}お^{うきなり}も^{うきなり}ひ^{うきなり}心^{うきなり}願^{うきなり}ふ^{うきなり}此^{うきなり}奥^{うきなり}にも^{うきなり}志^{うきなり}す^{うきなり}を^{うきなり}傳^{うきなり}ふ^{うきなり}
 子^{うきなり}裁^{うきなり}集^{うきなり}難^{うきなり}動^{うきなり}中^{うきなり}に^{うきなり}述^{うきなり}懷^{うきなり}百^{うきなり}首^{うきなり}れ^{うきなり}お^{うきなり}ら^{うきなり}み^{うきなり}傳^{うきなり}り^{うきなり}々^{うきなり}る^{うきなり}時^{うきなり}麻^{うきなり}粒^{うきなり}した^{うきなり}
 と^{うきなり}て^{うきなり}ら^{うきなり}ぬ^{うきなり}ぬ

○世ノ中ガワイユエス奥山ヘ引込ニダナラウイコトハアルマイト ^{下句}思ヒコニデ

這入タ山ノ奥ニモ麻ガ^{サネ}鳴ハアレカウ思ヒコニテ引込ニダ山ノ奥ニセウイ
 コトガアルカニテ悲シウ麻ガ^{サネ}鳴ハ^{上句}世ノ中ヨセウハ何所ヘ行テウイコト
 ヲノガレヤウソ世ノ中ニウイコトヲノガレニ行^{こそ}るガサナイワイ
 三田ニニとウを次方してさほべし

藤原清輔朝臣

父ハ左京大夫源清^{うきなり}也清輔^{うきなり}朝臣^{うきなり}ハ大皇太后也太夫^{うきなり}延正四位
 下^{うきなり}と^{うきなり}諸^{うきなり}所^{うきなり}に^{うきなり}凡^{うきなり}る^{うきなり}なり

おどろへは^{うきなり}は^{うきなり}此^{うきなり}以^{うきなり}也^{うきなり}志^{うきなり}此^{うきなり}を^{うきなり}れ^{うきなり}ん^{うきなり}う^{うきなり}し^{うきなり}と^{うきなり}み^{うきなり}し^{うきなり}世^{うきなり}ぞ^{うきなり}今^{うきなり}ハ^{うきなり}志^{うきなり}れ^{うきなり}
 新^{うきなり}右^{うきなり}を^{うきなり}集^{うきなり}難^{うきなり}動^{うきなり}下^{うきなり}に^{うきなり}歌^{うきなり}志^{うきなり}と^{うきなり}つ^{うきなり}り^{うきなり}京^{うきなり}集^{うきなり}難^{うきなり}ハ^{うきなり}三^{うきなり}條^{うきなり}太^{うきなり}大^{うきなり}
 臣^{うきなり}は^{うきなり}中^{うきなり}の^{うきなり}に^{うきなり}て^{うきなり}お^{うきなり}り^{うきなり}々^{うきなり}々^{うきなり}は^{うきなり}こ^{うきなり}後^{うきなり}つ^{うきなり}つ^{うきなり}り^{うきなり}々^{うきなり}と^{うきなり}あり

○昔ノコトヲ思ヒ出シテ今ノコトヲ悔ムハ人ノ常デコレマデニ
思フタ時^思ガサ^サ今デハ^上思^思此ト生ナガラヘテ居タナラバ又ウイト思フ
此時^思ガ思シウ思ヒ出サラルデカナアラウ
何ニ二三ト句を次第して述べる

後直法師

父ハ後朝御^思ナリ此法師の父と云ふことを明かに
するにせしを思ふ難^思ぜり

子^思我集意^思初ニ^思思^思れ^思な^思と^思て^思る^思る^思と^思り

○待人ハツレナウ来イデ 夜ドホレ^思思ヒ^思スル^思時^思ガ^思ハ^思ね^思ガ^思ア^思ケ^思カ^思ネ^思テ

麻^思思^思ノ^思ス^思キ^思る^思ガ^思セ^思ウ^思ハ^思シ^思ム^思カ^思ク^思ト^思待^思テ^思居^思レ^思ド 麻^思思^思ノ^思ス^思キ^思る^思
マデガツレナウシウマヌコトデゴザルイ

面直法師

台記に西行者本左兵衛尉義清と有りて在^思あ^思つ^思大^思夫^思康^思法^思
子^思法^思皇^思に^思仕^思へ^思り^思し^思人^思京^思り^思百^思孫^思持^思ル^思も^思ん^思て^思後^思京^思考^思
々^思然^思り^思及^思や^思と^思あり^思世^思俗^思憲^思清^思則^思清^思と^思云^思え^思る^思れ^思ど^思台^思記^思ヲ^思
と^思思^思べ^思し

ち^思ん^思ど^思と^思て^思身^思也^思ハ^思を^思お^思も^思ハ^思は^思る^思う^思と^思ち^思づ^思け^思る^思我^思後^思の^思邪^思
子^思我^思集^思意^思初^思己^思に^思身^思前^思意^思と^思い^思へ^思る^思心^思を^思と^思め^思る^思と^思あり

○ナゲトスデ月ガ^思思^思思^思ヒ^思ヲ^思サ^思セ^思ル^思カ^思イ^思ソ^思ウ^思デ^思ハ^思ナ^思イ 意^思ヲ^思ス^思ル^思オ^思ガ^思月^思ヲ

足テ何トナリ悲シウナツテコボレハ涙ナハ枯ヲソレニア月ガ枯ヲ哭セ
ハヤウ三月ニカコツケガマシウワシガ涙ガコボレハコトカナ

寂蓮法師

父ハ後醍醐天皇御所奉養所ナリ此法師本名定長左中兵衛
勢ハ備前己佐とあり月記に逝去此事見ス多ク

赴ル寸め此所もほづひぬ恨此所にてあり此所なる秋は夕ぐれ
秋は夕ぐれ集秋部にて是ナリ此所なりとあり

○村西ガ二村フリ通りテモ高ミダカハカ又此木ノ葉ニ赤ガ立ノボツ
テマツクウナツテサビシイタ昔子ヤハ深山ハイツデサビシク秋多
昔ハ何所デセサビシイニ深山ノ秋ノタ昔ハ格別ニサビシク相悲シイ

此木此所をもて深山此所をいへり此所集此木
立何ノ山ナリとあり 此木此所ハ深山此所ハ深山
此所ハ深山此所ハ深山此所ハ深山此所ハ深山

白雲山院

院置子ハ宗徳院之后大徳己亥二月五日午後六時二月五日
院法性寺右邊云女也前南ハ大徳己亥二月五日午後六時二月五日
可貴ハ名あるべし

難波之此所此所此所此所此所此所此所此所此所此所
子哉集意部三に按政部あり右大徳己亥二月五日午後六時二月五日

院判友代以憲父ハ世已佐上修業あるらし諸州にんこ
より

見せば衣をし後の袖の袖じふも濡れを濡し知るるす
子裁集意初にみ合合し作り々後時意の衣と下とあ家

と何り

○雄嶋ノ袖士ノヌレニヌレテアル袖サヘモヌレテアルバカリデサ私ガ

袖ノヤウニハ血ノ液ニソマルホドノコトハナイニ私ガ袖ト袖士ノ袖ト

ノチガヒメラ強面人ニ兄サタイワイナウ

二四三五トを以てしてさほべし 雄嶋ハ穢と云に何り

後京極掾政大政大臣

祖父ハ法性もなる父ハ後法性も眞実云母ハ世三位義永
孝以女後京極良理云ハ建仁二年十二月掾政元久元年
月長一佐同十一月粹元大后同十二月大政大臣同二年四月
粹元大政大臣建永元年二月最と諸記に云いし事

きあぐ次嶋也常和乃すむしるにと後もいしす指もね
秋と集秋初下に百そをなりなる時とあり

○蟋蟀ハ床ノ辺ニ近ヨツテキテ鳴ハヨコノおねノサムイニマルネヲ

シテ響リ森ヤウコトカイマア

ききをさむしるにいひのけねへり

二條院讃岐

院大津父八坂白河院大津母ハ大納言經実ハ女曾太后懿子也
津ハ守仁保元三亥十二月即位永承元亥七月崩御ハ
し百餘所に凡由發岐ハ係三位朝政此女弟ハとし法親に凡
えり

家袖ハ志保ハ凡ハぬ仲乃石乃人ハそあぬわくはもれし
子裁集意部ニに家石意といへんをとり

○ワタシガ袖ハ潮^{シホヒ}ニモ見エ又仲ノフカミノ石ノヤウニ人ハ^サシラネト
モ後ニヌレドホシデカク^バガザリマセヌ

九三
鹽倉右大臣

父ハ右大臣朝朝母ハ小條時政女政子也右大臣実朝ハ建仁

三亥九月叙^シ位下補^シ經実大納言建曆三亥二月三位建
保四亥六月權中納言六亥十月内大臣同十二月右大臣七亥正
月薨^ス云々補任^シ凡ハなり

此中ハあるもその法とくは後乃を恥のついでうゑし
朝朝撰集^ハ經實撰^ハ朝朝撰^ハ家集^ハにハ經實撰^ハ此の中
ありて歟^ハ舟あり

○世ノ中ハイツモカハラズ死ナヌモノニアリタイコトカナ サウアツタナラズ
く此所へ来テタノシマウニ 法ヲ漕^ハ海士ノツリ^ハ船ノツデヲ引^ハケシキカ
ドウモイヘヌケシキデ面白イハイマア

和名集に牽繩^{豆奈}挽舟繩也といり

久遠難經

父ハ形跡ハ難經也母ハ歌謡女也難經ハ歌久三丈并三位同
十二月冬後同三丈三月最ト云ハ補任小見ハ多ク兄宗長ハ
ハ難波家此ハハ飛鳥井家にてトモに居テ難經此家ハ祖トイ
ふあり

みちし乃ハ此秋風ナリト云フテ娘ハナリト云フテ長ク居テあり
新古ト集秋初下ニ持衣此心をとつり

○吉野ノ山ノ秋風ガ吹テ雪ケレバねフケテ此故郷ニ音ヲ立テ衣ヲ
ウツハアレ

前大僧正慈雲

父ハ法性寺住持云ハ此僧古座ニ是法親王也大僧正
始名ハ是法性寺住持云ハ十一月改慈雲嘉祿元年九月廿五日
入滅嘉祿三年三月溢慈雲住持ト云ハ此に足レ後ハある
を此に建久二年十一月権僧正ト云テ天台座主ト云レ
しハしんしん

おふがれくう記也乃民ふおふがれくう記也乃民ふおふがれくう記也乃民ふ
子裁集難經中に記スル文ト云リ

○吾ハ此山ニ住テ天下ノ民安全ノ祈禱ヲスルヤガワレハ不徳
ナレバ弱イ者ノ重荷デオニオハヌコトデハアルコトカナ

四三三と云を次才し三三と云を次才し三三と云を次才し三三と云を次才し
○百人首峯下

つけてまほべし改親抄におふが家くハ大膽ありといへれど
 うひはなびにハ肩氣無くあふらうしむがたつそはハ信
 義大師アヌクダラサマニクサマホダイ此何樽多良三瓶三喜持乃佛多ちり多つそはに
 冥加あうせ給へとらはれしハ多し家うつ而此抄といふき
 にて地乃名あらぬをほふハひえ此山此一名此如くいひあ
 せり山に位をすそめ此袖にいひうけそ袖をもておほ
 ひ免多むさぬにいへり袖をもておほふといふふは是給
 親安ぬにんえしり

入道前大政大臣

父ハ坊城内大臣実宗云母ハ前中納言全家つ女入道云經云ハ

貞應元年八月仕大政大臣寛喜三度十二月依病出家寛元
 二度八月薨此云嘉祿度中に西園寺をたてしれしうバ細
 室も大政大臣といへり此抄にんあ

花さそふ嵐乃座此雪あうでぬりゆく物ハ家方ありけり
 秋勅撰集難部ふ落花をそむけり々嵐と何り

○嵐ニサソハレテ座へ雪ノヤウニツテクルアノ花ニアラデ年ヨツテオ

トロヘユクモノハ家方デヤワイ

何しれさそふ座此雪此茶うでと次才してまほべし

権中納言宣茂

父ハ三條三位俊成つ母ハ三狭中家系親女也宣茂つる連

○百人一首峯抄下

曆三度九月叙爲三位任侍從建保六度七月民部卿嘉祿三
年十月民部卿叙爲三位寛壽四年正月任權中納言貞永元
年十二月叙爲左大臣十二月出家云明靜仁治二度八月二十日
薨祔京極中納言と云々補任爲小亮と云々

まぬ人を遣つばの浦比々あぢにやくせをしほのちもじづれは
秋勅撰集巻第三小建仁六年内裏比歌合ふと云々

○キセヌ人ヲ待トテ松帆ノ浦ノ夕ユフタギ和ニやくやも燒や燵のノ如クニガモコガ
レテ 毎タク待デキツウ苦シイワ

松帆浦ハ澄路あり こぬ人を待といひうれ夕あぢを人
あつた分にとれり藻塩ハ藻を養れ上におきて御を汲

六

うくぬあふいへり

増二位家隆

父ハ壬生中納言家隆母ハ大皇太后宮亮実兼女也家隆ハ
けじめれ名ハ家隆あえハ正月増色位下二度正月増色
久三度正月宮内卿建保四年正月増三位又曆二度九月十
日増二位嘉禎三度薨云々補任小亮と云々此ハ其の事
爲清抄にも見ゆ

風物々々あふの小川乃々量ハみそぞ集れと云々しあり
形勅撰集巻第三小亮嘉元二年女御入内此清原風物と云

○猶ノ葉ヘ凡ガソヨク吹クナラ小川ノ夕量ハ 源シウテトニ

ト秋ノ心忙ガスル 今コノデミソギヲスルコレバツカリガ サデ 夏ノ忙 あふし
ぢやワイ 六月晦日ニスルモノナレバ

風をさぐらふに紫衣をとり川々を皆涼しきものを
いり あつた小川ハ山隈國鳥聖郡みあるらし

大入
後鳥羽院

大徳父ハ高倉院大徳母ハ昭右大臣信隆乙女殖子也清漳ハ
高宗朱壽永ニ交八月岐詔連久九月十月讓位承久三交七
月於高倉院出家同月十三日如條北山トシテ隱岐國へ
うつしける也應元乙二月廿二日其國より京回乙月朔
丁卯詔院ト溢せられ仁治三交七月改めて後鳥羽院トヤ

春の諸記みえゆ

人もをし人もうとしつどまなくを思ふあふれ思ふあふれ
読後撰集難初に歌あふれとつり

○天下ノコトハミナ北条家ノハカラヒテ朝廷ハ衰ヘユクヲ心外ナル世ノア
あぢきなく
リサマカナト思フテミテモ 詮ナキ今ノ代ノアリサマヲイロクト思

フ天皇ノ心^男ノ内ニハ 賢良ノ臣ヲ挙用ヒント思ヘドモソレモカナテ

ハアツタラ良臣ヲト思ヘバソレモヲシイシ をし 邪曲無道ヲ以テ天下ニ

ワガマニ愚政ヲ行フコトカナト思ヘバソノ臣下^人ニモウラメシイシ あふし 心外

ナルコトカナ

と此二句を下の句に次みつけるといへばし うひはふびふ

あぢきなくハ味氣をきり己味にまゝてて心ちききう
はし艱難をうらしあぢきなく出て心ふうあひ下せ
むすべあきをあぢきなくしといひし俗にあぢきなくし
といふ似しり日本紀ふききき快ききききききききき
にあぢきなくしといひきききききききききききききき

100
明徳院

大徳父ハ後多明院大徳母ハ後太良能能事云云女徳明門院也
清徳ハ守集承元四支十一月更承承元三支四月讓位同七
月佐後國ハ後し事依仁治三支九月其國ハ後更承承元
凡由

百しきや右記水増北志記ふも後あけり何あけりしありなり
新後撰集難初歌きり更と何り

○人ノ家ノ年経テアレタル新撰ナドハハエル事ヲ思フ事ト云ガ又昔ノコ
トヲ思ヒ出シテイロク思フコトヲミナブト云ソコデコノ内裏ノ後
古キ新撰ノ指子ヲ見テカノミナブ艸ト云艸ノ名ノトホリニ昔ノコ
トヲイロク思フテ見テモくマダソシナコトギヤナイセウギヤウサシ
ナホドイロク思ヒ出スコトガアルコトギヤワイ
シメグサ ミナブ
垣衣ハ偶をいひうけ給へり 百しきハ大志冠禪ガ
りしを後小志いしきと能みりておれとせり後
此後とつゞしをしき増し能みいふごとし

はるるを極ふあゝあゝあゝの極を呼ぶ
乃ちわうせに昔にわのあゝあゝあゝと
大人にわあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

大松 敏系



衣川藏版

和讀要領辨

新古今集渚玉

金槐集解

右近刻

文化三年寅八月發行

弘所書林

江戸 白銀町二丁目 須原屋善五郎
 大阪 心齋橋筋北久太郎町 河内屋吉兵衛
 因幡 鳥取 柏屋正次郎
 伊勢 松坂日野町 柏屋兵助
 京都 寺町松原下町 梅村三郎兵衛
 同町 勝村治右衛門
 同 三條柳馬場東入 錢屋利兵衛
 同 三條寺町西八町 河南儀兵衛

本居先生著述書之内板行出来

松阪 文海堂
 皇都 華菱堂

字音かかばりひ 全部一冊
是本朝の字音の本と委細論ト云の考ハ有リナリ

漢字三音考 全部一冊
是本朝の漢字三音考并唐音の考ト云の考ハ有リナリ

玉鉾百首 全部一冊
是ハ古のたの意と古風の奇百首ト云の考ハ有リナリ

國語考 全部一冊
是ハ國語の記ト云の考ハ有リナリ

真曆考 全部一冊
是ハ異國の曆法の記ト云の考ハ有リナリ

菅笠の日記 全部二冊
是ハ吉野花見の時の日記ト云の考ハ有リナリ

言葉の玉鉾緒 全部七冊
是ハ小の玉と云の考ハ有リナリ

て小は細續 折本一冊
是ハ小の玉と云の考ハ有リナリ

大教詞後釋 全部二冊
是ハ中臣の教の記ト云の考ハ有リナリ

玉鉾百首解 全部一冊
是ハ玉鉾百首の解ト云の考ハ有リナリ

神代紀うむ山蔭 全部一冊
神代卷ト云の考ハ有リナリ

玉鉾百首解 全部二冊
是ハ玉鉾百首の解ト云の考ハ有リナリ

寛政十一年己未初秋

勢州松阪日野町 柏屋兵助

發行書林

京都三條通柳馬場東町 錢屋利兵衛

